

2026 年 7 月 13 日

学校法人瓜生山学園 京都芸術大学附属高等学校（通信制課程）

非常勤講師／英語（じぶんみらい科） （2026 年 9 月着任）の募集について



「ええかげん、変わりたいわ。」

この一言は、本校を受験したひとりの生徒が、つぶやいた言葉です。

でも、本当に生徒が変わらなければならないのでしょうか？

本当に変わらなければならないのは、学校の方ではないでしょうか？

学校は、もっと時代に沿って、生徒たちに寄り添って、変化していてもいい筈です。

学校は、「変わりたい」と思っている生徒の為に、「変わらなければならない」のです。

その為に、私たちの高校では、**2019 年に開設した普通科**に加えて、

新しく**「じぶんみらい科」（2025 年 4 月開設）**をつくりました。

【本校の特色について】

本校は、校名からわかる通り、芸術大学の附属高校ではありますが、個々の芸術表現の技能や知識の修得ではなく、芸術や表現活動の根本にある考え方を、より多くの生徒に伝えたいと考えています。

その根本にある考え方とは、

「自分を表現すること」「周りのひとを理解すること」

のふたつです。

「自分の考えを相手に伝えながら、相手の考えにも耳を傾け、その違いを互いに認め合う」

芸術の根幹に流れるこの考え方を、これからの社会を担う多くの人に身に着けて欲しいと願っています。

この考えのもと、2019 年 4 月に本校は「**通学タイプ**」の「普通科」の学校としてスタートしました。開校 8 年目を迎え、今では約 800 名の生徒が在籍しています。（2026 年 4 月現在）

普通科では、「対話型授業」の導入、「大学連携」による教育など、それまでの通信制高校では見られなかったコンテンツを揃え、開校以来、毎年 90%を越える進路決定率を継続しています。

そして 2025 年 4 月には、「**オンラインタイプ**」の「**じぶんみらい科**」（普通科以外の普通教育を施す学科）という新しい学科を設立しました。

現代の子供たちは、学校という閉ざされた空間の中で、自分では解決できない同調圧力や、強制される価値観に対して疑問を持ちだしています。そういった環境から、多くの生徒が、**自分の高校生活をどう送るかを自分で考え、自分に合った学校や学び方を自由に選択できるようになる**。そんな時代がすでに到来しています。私たちは、そんな新しい時代の、新しい学校になりたいと思っています。そして、生徒自身が、未来をつくり、自分をつくれるような教育環境を提供したいと思っています。

（学校のカリキュラム等詳しくは、高校の HP をご覧ください。）

「高校の勉強をしっかりとりたい」

通信制高校では、普通科目群（卒業に必要な科目）の学習は、できるだけ短時間で効率的に済ませて、自分の好きな事を学ぶために時間を使おう。という学校が数多くあります。「勉強が嫌い」と思っている（思い込んでいる）生徒たちに、そういった考え方が受け入れられているのも事実です。（結果、通信制高校全体の平均進路決定率は 70%程度となっています）でも、彼らは同時に「**高校の勉強をしっかりとりたい**」という思いを持っています。中学校時代に学校にあまり行けなかったこども達の多くは、「勉強ができない」「勉強が嫌い」ではなく、本人に起因しない様々な事情で「勉強を受ける機会」「勉強を楽しむチャンス」を失っただけなのではないでしょうか？

不登校生の急増に象徴されているように、多様化の進んだ現在、全員が同じベース、同じレベルで勉強する一斉授業のスタイルは、既に限界がきています。学習には自分にあったスタイルやペースがあります。新しい学科では、そんな生徒たちの声に応えたいと思っています。

未来をつくる、自分をつくる「じぶんみらい科」の特徴

●身近な社会課題を発見し、その解決方法を考える

「じぶんみらい科」の教育目標は、「**身近な社会課題を発見し、その解決方法を考える**」力を身につけることとしています。

普通科目で「他者と協働する為の共通言語」を身につけ、学校設定科目である創造科目で「課題の解決に必要な思考方法（デザイン思考）」を習得し、探究の時間で「課題の解決方法をみんなで考える」ことに取組みます。社会実装を掲げる芸術大学として長年培ってきた**創造教育をベースにしたカリキュラム**となっています。

●「大学連携」による教育

「じぶんみらい科」では、**課題の解決に必要な思考方法（デザイン思考）の修得を目的とした創造科目**（学校設定科目）を、大学の先生と共同で開発しました。「知る・探る・考える・つくる・伝える」をキーワードとし、大学のマンデープロジェクトというワークショップ型の授業をベースにしています。芸術大学附属ならではの科目となっており、探究科目と表裏一体となっています。

●まるで通学しているようなコミュニケーション

自宅学習には、ひとりで勉強しなければならないイメージがあります。確かにそういった側面はありますが、実はひとりぼっちではありません。自分が勉強している時に、空間は共有していなくても、同時に勉強している友人がどこかにいます。

そこでじぶんみらい科では、「**オンライン職員室**」「**オンライン自習室**」など、様々な空間をオンラインで生徒たちに開放しています。自宅で学習をする生徒を「自習室」でつなげ、定期的な「HR」もオンラインで実施します。「オンラインライブ授業」では同じクラスの友人と共に授業を受け、悩みがあれば「職員室」に行って担任に相談する。学校という空間をオンライン上に再現しています。また Slack をコミュニケーションツールとして導入し、**生徒をひとりぼっちにしない環境**を提供しています。

能動的・主体的な態度をつくる「新普通科」の特徴

●「対話型授業」の導入

その実現の為に、普通科では「対話型授業」という教育手法を取り入れています。正解のない問いに対して、生徒同志が意見を出し、聞きあう。そして合意形成にたどり着く。それは、これまでの、ひとつの正解をもとめてきた勉強の仕方とは対極にある教育手法です。ここでは、絶対的な正解は存在しません。それぞれの意見の良さを認めあい、よりより考え方にたどり着くことに重きがおかれています。また、「対話型授業」を特定の科目だけでなく、全ての科目において導入できるようにチャレンジしています。「対話型授業」の手法を身につけることは、教員としてのステップアップにつながる貴重な体験でもあると考えています。

●「大学連携」による教育

普通科では「**プロフェッショナル科目**」という**大学や専門学校の教員による授業**も導入しています。様々な分野

のプロフェッショナルである先生による専門的な授業を通して、生徒自身が自分の将来をイメージできるのも大学附属ならではの特色です。

また、**大学と同じキャンパスにあるメリット**を生かし、本校の生徒は、図書館、学食、カフェ、ラウンジなど、自由に大学キャンパスの施設を使うことが可能です。一般の高校生にとって、大学施設に入れるのはオープンキャンパスの時位ですが、本校の生徒は大学施設に自由に入出入りする事で、「普段の大学生」のイメージを持つ事ができ、自身の将来を考える上で、大きな意味を持っています。

●「通信制高校」の仕組みを生かした新しい教育スタイル

普通科では通信制高校の仕組みを使う事で、学び方や高校生活に対する新しいスタイルを生徒たちに提示しています。**週 3 日の授業日を基本に自分で登校日数を決められる仕組み**や、教員による指導ではなく生徒たち自身が活動内容を決定し自主性を育む同好会活動、また校則は設けていません。元気な生徒たちの姿を見て、通信制高校に対するイメージが変わったという言葉も多く頂きます。全日制では実現できない新しい学校の姿が普通科にはあると思っています。

<高校の概要>

校 種 高等学校

課 程 通信制課程 普通科、じぶんみらい科

教育区域 普通科 京都・滋賀・大阪・兵庫・奈良

じぶんみらい科 全国（スクーリング会場 京都・東京）

所 在 地 京都市左京区北白川上終町 24

開 校 2019 年 4 月 1 日（普通科開設） 2025 年 4 月 1 日（じぶんみらい科開設）

生 徒 数 789 人（2026 年 4 月 1 日現在）

詳しくは、高校 HP をご覧ください。 <https://shs.kyoto-art.ac.jp/>

【設立母体瓜生山学園について】

学校法人瓜生山学園は、学園創設者である徳山詳直が提唱した“宇宙の万物の調和ある共存をもとに芸術の力で世界平和を実現しよう”という「芸術立国」の理念のもと、他者を思いやる「想像力」と、新たな価値を生み出す「創造力」を育み、その力を社会に役立てることのできる人間の育成をはかり、社会課題の解決と世界の平和に貢献することを使命としています。

この「芸術立国」の理念のもと、教養教育、基礎教育、専門教育の全てを通して「人間力」と「創造力」を育み、特色ある教育手法と社会連携による実践的な学びによって、新たな価値を社会に発信し続けることのできる自立した人間を育成し、設置校および各教育課程の間で教育手法、教育成果を共有し、学園全体の教育力向上に取り組んでいます。



同時に、開設当初より、世代、地域を超えた教育の提供をも目指しており、設立 30 周年を記念して宣言された「芸術立国」の中でも、「新たな 30 年の展望」のひとつとして、「世代を超え、地域を超えた芸術運動を目指す」と記されています。

短大、大学の設立に続き、通信教育部の設立により世代・地域の枠を越え、2019 年には念願であった高校の設立に至りました。現在では全体で 24,000 人を越える在校生を数える学園になりました。それでも、学園の歩みは、まだまだ道半ばです。これからも「学生ファースト」の視点を大切に、世の中の常識にとらわれず、チャレンジし続けていきます。

〔沿革〕

1977 年	京都芸術短期大学 造形芸術学科を設置
1991 年	京都造形芸術大学 芸術学部を設置
1996 年	大学院 芸術研究科（修士課程）を設置
1998 年	芸術学部 通信教育部を設置
2000 年	京都造形芸術大学、京都芸術短期大学を統合し、総合芸術大学に再編
2005 年	こども芸術大学を開設（付置施設）
2010 年	東京外苑キャンパス、大阪サテライトキャンパス開設
2013 年	京都芸術デザイン専門学校、京都文化日本語学校を併設校に
2019 年	京都造形芸術大学附属高等学校開校 認可保育園こども芸術大学開園
2020 年	京都芸術大学・京都芸術大学附属高等学校に名称変更

詳しくは、大学 HP をご覧ください。

<https://www.kyoto-art.ac.jp/>



【応募要領】

応募職種	教員
雇用形態	非常勤講師
対象教科	英語
職務内容	科目担当（スクーリング、添削、試験等）
勤務地	京都芸術大学附属高等学校（京都市左京区北白川上終町 24）
期間	2026 年 9 月～2027 年 2 月
募集人数	1 名（予定）
応募資格	①着任時に、該当の教科・科目の高等学校の教員免許所持者 ＊本学園では 65 才定年制（65 才の誕生日を迎えた年度末）となっておりますので、着任時 65 才未満の方を対象とさせていただきます。
応募方法	下記＜応募書類＞一式を、郵送にてご提出下さい。 ①教員採用エントリーシート ＊エントリーシートは京都芸術大学ホームページよりダウンロードして下さい。 京都芸術大学 HP 教職員募集 https://www.kyoto-art.ac.jp/info/recruit/ ②職務経歴書（任意書式、A4 サイズ） ③教員免許状（写し） ＊職務経歴書は、指定書式は設けていませんが、A4 サイズの用紙でお願い致します。 ＊応募書類は返却いたしませんので予めご了承下さい。 ＊応募にあたってご提出頂いた個人情報本学園規定にしたがい適切に管理し、採用選考の目的以外に使用しません。
応募期間	＜応募書類＞一式をご郵送又はご持参下さい 随時審査 ＊採用が決定した場合は、その時点で終了とさせていただきます。
選考方法	①書類選考（随時） ②面接選考（日程については書類選考通過者に個別にお知らせします） ＊面接の際の交通費等の支給はありませんのでご了承下さい
応募宛先	〒606－8252 京都市左京区北白川上終町 24 京都芸術大学附属高等学校 採用担当 ※封筒の表面に「非常勤講師応募書類在中」と朱書きしてください。

【勤務条件／待遇】

業務内容 教科科目に関わるスクーリング・レポート・試験等の業

務 給 与 1,500 円／時 給

* スクーリング準備、スクーリング、レポート作成及び添削、試験問題の作成及び
添削等、上記業務に係る実働時間分お支払いします。

通勤手当 本学規程に基づき、出校回数分を翌月にお支払いします

担当科目 科目、授業回数やコマ数は予定となり、変更することがございます。以下は目安となります。

教科	英語
科目	英語コミュニケーション I(予定)
コマ数	週 3～5 コマ※応相談

授業曜日 授業期間中（9 月～1 月）月・水・金のいずれか ※2 月は添削のみ

* 通信制の場合、週の時間割は固定ではありません。

（週によって、スクーリングの無い曜日もあります。）

就業時間 9：00～17：30

（業務に合わせたの時間帯でご出勤となります）

契約期間 2026 年 9 月～2027 年 2 月末

備 考 受動喫煙対策あり：敷地内禁煙（屋外に喫煙場所設置）

問い合わせ先 京都芸術大学附属高等学校 採用担当 小南

e-mail : koukou@office.kyoto-art.ac.jp

T E L : 075-741-8365（平日 9：00～17：30）

■ご応募の前に、必ず大学ホームページより、『京都文藝復興』『藝術立国』をご一読下さい

『京都文藝復興』 <https://www.kyoto-art.ac.jp/info/about/philosophy/pdf/hukkou.pdf>

『藝術立国』 <https://www.kyoto-art.ac.jp/info/about/philosophy/pdf/artsnation.pdf>

『高校 HP』 <https://shs.kyoto-art.ac.jp>